

## 甲府盆地 500mボーリングコアの地質

## Geological outline of 500m borehole core from Kofu basin, central Japan

# 輿水 達司 [1]; 内山 高 [2]; 八木 公史 [3]; 嵯峨山 積 [4]

# Satoshi Koshimizu[1]; Takashi Uchiyama[2]; Koshi Yagi[3]; Tsumoru Sagayama[4]

[1] 山梨県環科研・地球科学; [2] 山梨県環科研; [3] 蒜山研究所; [4] 道立地質研・海洋地学

[1] Yamanashi Inst. Environ. Sci.; [2] YIES; [3] Hiruzen I. G. C.; [4] Marine Geosci., Geol. Surv. Hokkaido

1995年兵庫県南部地震を契機に、地震防災対策を目的に基盤岩類およびそれを覆う堆積構造に起因する地震動予測を主眼とした調査・研究が日本列島の各地で展開されてきた。この中で、甲府盆地の地下構造の全容解明を目指し、甲府盆地において反射法探査、微動アレー探査および深層ボーリング調査が実施された。具体的には、4層の反射面が識別され、このうち基盤に当る最も下位の面については最も顕著な反射が認められた。このような地震探査から推定された地下構造との対応を明らかにする目的で500mのボーリングが、ほとんどオールコアの状態で採取され比較検討され、甲府盆地一帯における地震防災のための資料としてまとめられた(山梨県,2003)。演者のひとり(輿水)は、これら一連の検討委員会のメンバーであった。

その後、輿水の所属する山梨県環境科学研究所がこのボーリングコアを譲り受け、コア試料を材料に、年代学および環境科学等の方面から検討を重ねてきた。この500mボーリングコアの構成は下位より順に、水ヶ森火山岩、黒富士火砕流、礫層を挟み、葎崎岩屑流、さらに最上部の礫層に大別される。水ヶ森火山岩についてはその時代をしばしば鮮新世として扱われる場合が多いが、我々が実施したK-Ar年代測定では第四紀を示す結果が得られている。また、最上部の礫層と区分される中に、腐食物をしばしば介在するシルト層が発達しており、この年代につき加速器炭素年代測定を試みており、これらの有機質土の堆積年代が明確になりつつある。甲府盆地は周囲が山地に取り囲まれ、これら山地には第三紀から第四紀にわたって活動した火山岩や火砕岩が発達している。また、甲府盆地内においては温泉掘削に伴い採取された深度の深いコア試料や道路工事等に伴い得られた浅い深度のコア試料類が保存されている。そこで、これら火山岩・火砕岩類との対応関係や、第四紀後期における有機質土などの特徴的な堆積物の盆地内における分布等につき対比を検討し、甲府盆地における地質構造発達史や環境変遷史を解明する上で、500mボーリングコアの解析は重要となる。本講演では500mボーリングコアの層序と年代情報を中心に報告する。